



Special Viewing The Sixty-nine Stations of the Kisokaido  
 Exhibition dates : August 31st (Thu) – October 1st (Sun)

特別  
 展観

# 木曾海道 六拾次 之内

会期 令和5年 8.31(木) - 10.1(日)  
 (2023)

中山道広重美術館  
 Hiroshige Museum of Art, Ena

【中山道広重美術館スポンサー制度協賛企業】  
 ○毎週水曜日は観覧無料、フリーウエズデー  
 〈スポンサー〉(株) エナ重機、ナカヤマ・グループ、(株) デジタ  
 ●毎週金曜日は観覧無料、フリーフライデー  
 〈スポンサー〉(株) 銀の森コーポレーション、  
 楽園住宅・カネコ・木KeyPoint、(株) サラダコスモ ちこり村



# 木曾海道六拾九之内

特別  
展観

会期  
令和5年  
(2023) 8.31(木) - 10.1(日)

Museum  
Shop  
News

ミュージアムショップから  
フェリシモ「ミュージアム部」と  
「広重おじさん」グッズをコラボ!

ミュージアムショップではフェリシモ「ミュージアム部」とのコラボ商品を販売します。まずは「木曾海道六拾九次之内」に登場する旅人たちが刺繍された足袋靴下、「タビビトソックス」です。デザインは今須・御嶽・みゑじ・伏見の4種類(各2サイズ)。着圧仕様の土踏まず部分が歩行をサポートしてくれます。タビビトソックスを履いて、広重の描く旅人「広重おじさん」と一緒にお出掛けしてみませんか。さらに、広重の描いた4種の東海道【保永堂版・行書版・隷書版・豎絵】から選ばれたおじさんが絵柄になった「広重おじさんトランプカード」もございます。トランプで遊びながら、表情豊かで可愛い広重おじさんを是非ご自宅で楽しんでください。



△タビビトソックス 各1,650円 △広重おじさんトランプカード 1,100円  
※価格はすべて税込

ミュージアム部™

中山道広重美術館

Hiroshige Museum of Art, Ena

〒509-7201 岐阜県恵那市大井町176-1  
TEL(0573)20-0522 FAX(0573)25-0322  
https://hiroshige-ena.jp  
\*JR中央線恵那駅から直進徒歩約5分  
\*中央自動車道恵那インターから約5分



Special Viewing The Sixty-nine Stations of the Kisokaido

Exhibition dates : August 31st (Thu) – October 1st (Sun)

- 観覧料 大人/820円(660円) ( )内は20名以上の団体料金  
▲18歳以下無料、障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。  
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日 月曜日(ただし、9.18(月・祝)は開館)、9.19(火)  
主催 恵那市、恵那市教育委員会、(公財)中山道広重美術館  
【関連イベント】※無料、ただし観覧料は必要です。  
■木曾海道“おじさん”探しクイズ  
日時:随時(作中の登場人物をワークシートで出題) 場所:展示室1、2(1、2F)  
■学芸員による作品ガイド  
日時:9.3(日)、24(日) 各日午前10時30分～(40分程度)  
場所:展示室1、2(1、2F)  
■解説ボランティア・幽遊会による作品ガイド  
日時:随時(要事前予約)



## 【展覧会概要】

溪斎英泉(1791-1848)と歌川広重(1797-1858)による「木曾海道六拾九之内」は、起点・日本橋と木曾街道(中山道の異称)の69宿を主題とする街道絵シリーズです。名所絵や街道絵などの風景画が浮世絵の一ジャンルとして発展した天保年間(1830-44)に制作され、長きにわたり出版され続けました。そのため、本シリーズの各図には、増し摺りに伴う複数のバリエーションや異版(変わり図)が存在します。恵那市の浮世絵収集家・田中春雄氏(1919-2012)が約30年の歳月をかけて収集した「木曾海道六拾九之内」は121点に及び、豊富な“摺り違い”が特徴です。雲母摺や胡粉が施された図もあり、当時の浮世絵出版界の隆盛ぶりがうかがえます。

本展では、田中コレクション「木曾海道六拾九次之内」から78点出品し、摺り違いの比較展示を行うほか、新規収蔵品5点をお披露目いたします。2人の絵師による中山道の叙情豊かな自然描写と共に、本物の実見でしか味わえない浮世絵木版画の技巧をお楽しみください。

## 【図版】



(左) 歌川広重「木曾海道六拾九次之内 武佐」  
大判錦絵 天保8～9年(1837-38)頃 当館蔵(令和4年度新規収蔵品)  
(右) 歌川広重「木曾海道六拾九次之内 武佐」  
大判錦絵 天保8～9年(1837-38)頃 当館蔵(田中コレクション)

中山道広重美術館は、初摺(初版)だけでなく後摺(第2版以降)や異版の図もそろえたいという田中氏の遺志を受け継ぎ、「木曾海道六拾九次之内」の収集を続けています。本展では、令和4年度に新規収蔵した「武佐」(左図)を初めてご覧いただけます。

武佐宿(現・滋賀県近江八幡市)の西を流れる川の舟橋を渡っていく旅人たち。手前岸に配された木の幹が、画面の左右を両断するような構図です。両図は同じ図柄の作品ですが、摺られた時期が異なります。このうち、左図がより早期の出版で、絵師・広重の表現意図を忠実に反映していると考えられています。川の両岸から藍のぼかし摺(グラデーション)を施しつつ、中央は白く残すことで紙の地色を生かしています。淡い色使いにより、葎が生い茂る川辺の情景を爽やかな印象に仕上げた1枚です。一方、右図は藍一色の川面の上からぼかし摺を重ねており、迫り来る夕闇の気配を感じさせるような深い色使いとなっています。皆さまは、どちらの摺りがお好みでしょうか。



Instagramはじめました♪  
hiroshige\_ena\_museum



当館ではこの度、公式Instagramを開設しました。展覧会やイベント、当館オリジナル商品の情報、SNS限定企画「#広重おじコレ」を随時発信していきます。ぜひ、いいね&フォローをお願いいたします。



HIROSHIGE\_ENA\_MUSEUM

表面作品(全て部分)上から1段目 左右とも:歌川広重「木曾海道六拾九次之内 武佐」/2段目 左右とも:溪斎英泉「木曾街道統一日本橋雪之曙」/  
3段目 左:溪斎英泉「岐州街道 鴻巣 吹上富士遠望」 右:無款(溪斎英泉)「岐州街道 鴻巣 吹上富士遠望」/  
4段目 左右とも:歌川広重「木曾海道六拾九次之内 落合」/5段目 左右とも:歌川広重「木曾海道六拾九次之内 中津川」  
※全て当館蔵、1段目左の他は全て田中コレクション

ウェブミュージアムショップ 美術館ホームページ

